

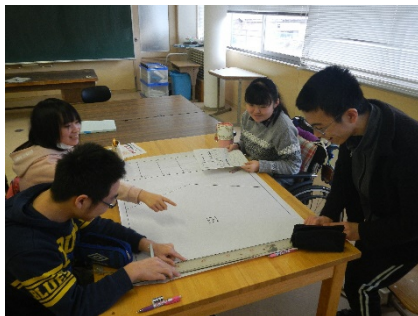

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 福島県 】

学校名【 福島県立郡山支援学校 】

1 実践テーマ	II・III
2 実施対象者 (学年・人数)	福島県立郡山支援学校 高等部生徒1～3学年10名 寄宿舍指導員7名 富田地区ボランティア 5名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (保健体育) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	(1) パラリンピック種目ボッチャの競技ボランティアとなり、ボッチャ体験の支援をすることを通してパラリンピックへの理解・関心を高める。 (2) 世代を超えた地域の方とともに活動することで互いに尊重し合い、共に力を合わせて生活する共生社会の実現の一助とする。
5 取組内容	<p>(1) 本校に協力いただいている地域のボランティアの方々（以下、地域の方々）を招いて、ボッチャ交流会を実施するための準備。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>(2) ボッチャ交流会開催 ① シドニーパラリンピック車いすバスケットボール競技日本代表の増子恵美様にパラリンピックについての講話、丸山内雄大様にボッチャのルールについての講話、両名による実技指導を受けた。（両名とも福島県障がい者スポ</p>

ーツ協会所属)



② ボッチャ体験では、競技ボランティアとして地域の方々と一緒にボッチャ体験をしながら交流を深めつつ、参加者の支援を行った。



6 主な成果

- 主催者、競技ボランティアとして何ができるかを考え、交流会に向けて準備を進め、運営・接遇することでおもてなしの心を養う一助とすることができた。
- 交流会で地域の方々を支援したり、互いに協力したり、コミュニケーションを図ったりしたことにより、お互いにパラリンピック競技ボッチャ（障がい者スポーツ）への理解を広げることができた。
- パラリンピックや講師の経験談（スポーツを通しての目標実現の仕方）、ボッチャのルールについて講話を聴くことで、スポーツについて興味・関心を高め、東京オリンピック・パラリンピックへの興味・関心・期待感を高めることにつながった。

<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 学校に協力をいただいている地域の方々の「ボッチャってなに、やってみたい。」の声を受け、それに高等部生徒が応える機会として交流会を実施するようにした。 • 障がい者スポーツの理解やパラリンピックへの興味・関心が高まるようにパラリンピアン、競技について詳しい講師をボッチャ交流会に招へいした。 • ボッチャ交流会のボッチャ体験では、生徒一人が受け持つ地域の方々を少数とし、スローイングボックスを2ボックス制にすることで地域の方々と本校生徒のコミュニケーションが密にとれるようにした。
<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 年度途中からの推進校依頼であったため、年間指導計画と異なることになり、校内の日程の調整などが難しかった。また、本校に協力いただいている地域のボランティア団体5団体（40 名程度）への協力依頼が年度途中からとなったため、講師や学校の行事との調整が難しくなり、地域の方々の参加が当初の予定より減ってしまった。
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> • これまで地域の高等学校（同世代）との交流学习を年間 2 回継続してきた。今年はさらにスポーツを通して世代を超えた交流を行い、よりインクルーシブな社会の構築を広げる取り組みになったことから、次年度以降も継続していきたい。